

Artfull うちうら

[発行]
内浦公民館
〒919-2351
高浜町山中 104-4-2
TEL.0770-76-2007
FAX.0770-76-2008
E-mail
uchiura_c.c@town.takahama.fukui.jp

内浦公民館講座

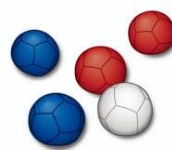


夏休み習字教室



令和 5 年 8 月 10 日 (木)

内浦公民館で【夏休み習字教室】を行いました。講師は、居関里江さん。和室では小学 1・2 年生の『書き方』会議室では、小学 3 年生以上の『習字』を教わりました。学年ごとの参加人数に合わせ時間を分けて行いました。少人数の為、落ち着いて取り組めたようです。筆の持ち方や姿勢などの基本から、課題文字の筆使いを教わりました。



ニュースポーツ体験教室 (全 2 回)

令和 5 年 8 月 5 日・19 日 (土)

内浦公民館 2 階多目的ホールで『ボッチャ』を行いました。子供から大人まで誰でも楽しめるスポーツです。講師は、高浜町スポーツ推進委員の田上秀幸さん。はじめにボッチャの説明の後、試合をしながらルールを教わりました。ボールが思うように転がらない所が難しくもあり楽しくもあり、1 投 1 投歓声が上がりました。点数を取る為の作戦も考えながら、試合を進めました。

●開館時間 午前 8 時 30 分～午後 10 時 ●利用時間 午前 9 時～午後 9 時 30 分
※夜間利用が無い場合は午後 5 時で閉館いたします。

《地域ニュース》

8月14日（月）THEBON 主催で【盆踊り】。8月19日（土）音海区自治会主催で【花火大会】が開催されました。どちらの会場も久しぶりに皆さんが集まり、楽しい時間を過ごしておられました。夏の思い出ですね(#^^#)



4年ぶりの開催となった盆踊りについて THEBON 会長の内藤さんに伺うと
「懐かしい。踊りの練習をしながら色々思い出しました。楽しみながら準備が出来ました」と答えてくださいました。皆で楽しめる行事の復活ですね。



関西電力(株)高浜発電所ヘリポートを会場に、夕方6時から準備を始める事を区長の牧野さんに教えていただきました。【花火】を2年前に開催した時は、集まらず自宅から見て楽しむ形だったそうです。今年は花火が始まる8時前には広場にたくさん集まって来られました。皆でカウントダウンし夜空に打ち上げられた花火はとても綺麗でした。



館長の《こーひーぶれいく》No. 101



今回は 千早 茜 著 「しろがねの葉」です。

戦国時代末期、銀の採掘で繁栄する石見銀山を舞台に、少女ウメが過酷な運命に抗いながらも、自立した女性として成長していく。第 168 回直木賞受賞作。

ウメが生まれた貧しい山村は秀吉の唐入りの徴用と凶作により、米もまともに食えず山草などを食べるような生活であった。「山を二つ三つ超えた石見の国に光る山がある。そこで銀を掘れば飯を食える」そんな話を聞いた両親はある夜、村の米を盗み夜逃げをするが、村人に見つかり、ウメだけが逃れる。

辿り着いたのは石見の銀山の間歩（坑道）であった。そこでウメは天才山師、喜兵衛に拾われる。

ウメは幼い頃から夜目がきき、暗いところでも平気で歩ける男勝りな性格であった。自らの意志で銀掘になると決め、喜兵衛から鉱山の知識や鉱脈のありかを授けられ、山で生きていくすべを教えられ、喜兵衛の手子（雑用係）として働き始める。

銀掘には、坑道の掘削や鉱石の採掘をする「銀堀」、採掘中に出る岩石を坑道から出す「柄山負」、坑内での雑作業をする「手子」がある。

ウメは夜目がきき、小柄で機敏なため重宝されるが、思春期に入るとともにウメの体は女性として変化していき、銀掘仲間からも女として見られ、以前のように男と同じような働きが出来なくなっていく。

関ヶ原の戦いをへて徳川の支配に変わり、現場を取り仕切っていた喜兵衛の影響力は薄れ、石見から離れることとなり、ウメは一人になってしまう。

ある時ウメは鉱山に派遣された男たちに襲われ、子を宿すが流産してしまう。

喜兵衛が亡くなったことを聞き、幼いウメを拾い育ててくれた喜兵衛に淡い恋心を秘め、悲しみにくれるウメ。幼い頃からウメに思いを寄せていた隼人と結婚することを決め、もう山には上らず、母として女として生きていくことを選ぶ。三人の子をもうけ、幸せな日々を過ごすが、やがて銀掘の隼人も肺を病み、亡くなってしまう。

その後、幼馴染で喜兵衛が引き取り育てた、異国の血を引くという碧い目の龍が立派な青年として現れるが。

しろがねの葉とは銀の光を放つシダの植物で、銀の鉱脈のあるところに自生するといわれる。ウメが喜兵衛に助けられたとき、しろがねの葉を握っていた。その後のウメの闇夜と希望の光を暗示させます。



「しろがねの葉」の大きなテーマは「ひとはなぜ生きるのか」でしょう。鉱山で働く男たちは寿命が短く、ほとんどの者が 30 歳を待たずに亡くなったという。夫が死に、息子が死にゆく中で、男たちを支える女たちは、どんな思いで一生を終えたのだらうと考えさせられます。

一時は世界の三分の一の銀を産出するといわれた石見銀山。鉱山で働く男は肺病や事故で早逝してしまう。残された女たちは何回も嫁ぎ、子孫を残し育てた。「石見の女性は三人の夫を持った」ことを聞いて当時の女性がどんな気持ちで生きていたのかが気になった。と著者は語っています。

内浦公民館講座のお知らせ

*詳しくはチラシをご覧ください。

10/14 開催の【マイクロプラスチック再利用教室】を詳しくお伝えします！

● 内浦公民館講座で、『マイクロプラスチック』の存在について注目したのは、令和3年の【みんなで考えよう～海のこと～】でした。海にどんなゴミがあるのか子供達と調べてプラスチックゴミが多い事がわかりました。それから「海のゴミを減らしたい」という思いでアンブレラマーカーを作っている、カラニカイ（永野由佳）さんと知り合いマイクロプラスチック再利用教室アンブレラマーカー作りの講座を行いました。そして今回の【ランプシェード】はカラニカイさんがよりたくさんのマイクロプラスチックを加工して使える物として考えられました。「ランプシェードを日常的に使って、秋の夜長に灯してリラックスにご活用ください」との事です。楽しみながら、一緒に作りましょう。



海のゴミ



マイクロプラスチック



アンブレラマーカー



ランプシェード

月	日	曜日	講 座 内 容	
9	19	火	元気あっぷ生き活き倶楽部	<13:30～15:00>
	27	水	らくらく運動教室（日引ふれあい広場）	<13:30～14:30>
10	3	火	元気あっぷ生き活き倶楽部	<13:30～15:00>
	7	土	絵手紙教室	<10:00～11:30>
	14	土	マイクロプラスチック再利用教室 ～ランプシェードを作ろう～	午前<10:00～12:00> 午後<13:00～15:00>

転任のご挨拶



9月1日より教育委員会事務局に異動になりました。内浦公民館の勤務は1年5ヶ月という短い期間でしたが、大変お世話になりました。ありがとうございます。

内浦公民館に勤務して、まだ知らない内浦地区の魅力を知り、内浦地区の方々の懐の深さと優しさを感じました。内浦のかわいい子どもたちにも出会えてとても楽しかったです。

新しい職場では学校に関係する仕事を担当します。また皆さまにお世話になることもあるかと思いますので、その節はどうぞよろしくお願いいたします。

【教育委員会事務局（前 内浦公民館）主査 寺下千代美】